3/9 福井

「原発のない福井」訴え

福島事故10年 県都で200人集会

約200人が集まり、原発のない社会の実現を訴えた集会＝７日、福井市のフェニックス・プラザ

東京電力福島第１原発事故から10年を前に、脱原発を求める県民らでつくる「さよなら原発福井県集会」実行委員会が７日、福井市のフェニックス・プラザで集会を開いた。約２００人が参加し「事故を二度と起こしてはならない。原発のない福井を」と訴えた。

団体の共同代表で小浜市の住職中嶌哲演さん(79)は「福島の犠牲や惨禍などなかったかのように老朽原発の再稼働に向けて急展開している」と批判。福島県の市民団体の代表委員はビデオメッセージで「現在も３万６千人以上が避難し、世論調査では県民の約４割が普段の生活で放射線を意識している」と話した。

青森県むつ市の市民団体は「使用済み核燃料の中間貯蔵施設とは名ばかりで、永久貯蔵施設になることは必至。一貫して操業に反対している」とのメッセージを寄せた。

福井弁護士会の島田広弁護士は、関西電力大飯３、４号機の設置許可を違法として取り消した昨年12月の大阪地裁判決について講演。集会後、約１００人が福井地裁前までデモ行進した。

（嶋本祥之）